

那 覇 市 民 栄 誉 賞

登録番号	表彰年月日	氏名（団体名）	表 彰 理 由
第 1 号	平成 11 年 4 月 16 日	沖縄尚学高等学校 (校長 名城 政次郎)	第 71 回選抜高校野球大会において、春・夏通じて悲願の初の全国制覇を成し遂げた。この快挙は、市・県民に感動と夢とそして希望を与え、那覇市の名声を全国に高めた。
第 2 号	平成 11 年 4 月 16 日	興南高等学校 (校長 徳山 盛彦)	第 22 回全国選抜ハンドボール大会において、沖縄県勢として初の全国制覇を果たした。この快挙は、市・県民に感動と夢とそして希望を与え、那覇市の名声を全国に高めた。
第 3 号	平成 12 年 3 月 12 日	那覇市立金城中学校 (校長 宮城 政夫)	全日本マーチングフェスティバルにおいて、平成 11 年度まで金賞を 5 回（3 回連続を含む）受賞した。 市・県民に感動と夢とそして希望を与え、那覇市の名声を全国に高めた。
第 4 号	平成 12 年 7 月 22 日	安室 奈美恵	平成 6 年のソロデビュー以来、日本レコード大賞を 2 年連続受賞、NHK 紅白歌合戦に 5 年連続出場する等一躍、スーパースターの座を獲得した。 氏の活躍は青少年をはじめ市・県民に大きな誇りと希望を与えるとともに那覇市の名声を全国に高めた。
第 5 号	平成 12 年 10 月 8 日	那覇大綱挽保存会 (会長 呉屋 秀信)	昭和 46 年の発足以来、本市の伝統行事である那覇大綱挽を市・県民に幅広く定着させ、観光振興に多大の貢献をした。特に平成 7 年には、世界一の大綱としてギネスブックに登録認定され、沖縄・那覇市を広く世界にアピールし市・県民に夢と感動を与えた。
第 6 号	平成 12 年 10 月 30 日	那覇爬龍船振興会 (会長 吉濱 照訓)	600 年の伝統を誇る那覇ハーリーを昭和 50 年に復活させ、沖縄に若夏を告げる伝統行事として、市・県民に定着させるとともに沖縄観光の振興に多大の貢献をした。市・県民に壮大な夢とロマンを与え、全国的に那覇市の名声を高めた。
第 7 号	平成 14 年 5 月 20 日	那覇市立石嶺中学校 (校長 宮城 盛夫)	昭和 63 年の創立以来、沖縄県・全日本リコーダーコンテスト（合奏・重奏の部）において、14 回連続金賞受賞の栄誉に輝いた。この快挙は市・県民に大きな感動と希望を与えるとともに、県内の中学生に自信を与え、那覇市の名声を全国に高めた。
第 8 号	平成 22 年 9 月 10 日	興南高等学校	第 82 回選抜高等学校野球大会で優勝し、第 92 回全国高等学校野球選手権大会においても沖縄県の高校としては初めて優勝し、春夏連覇の偉業を成し遂げた。この快挙は市民に大きな夢と希望を与えた。

第 9 号	平成 24 年 8 月 29 日	宮里 美香	史上最年少となる 14 歳で日本女子アマチュア選手権を制し、平成 21 年に全米女子ツアーでプロデビューし、平成 24 年 8 月 19 日LPGAツアーのセーフウェー・クラシックで優勝。これは日本人 8 人目で、全米ツアー出場資格を持つ日本人での最年少記録。この快挙は市民に大きな夢と希望を与えた。
第 10 号	平成 30 年 12 月 28 日	山川 穂高	学生時代より数々の世界大会の日本代表メンバーとして活躍し、2014 年、埼玉西武ライオンズに入団。2018 年には県出身プロ野球選手初となる「パシフィック・リーグ最多本塁打者賞」と「パシフィック・リーグ最優秀選手賞」に輝くなど、これらの快挙は市民に大きな夢と希望を与えた。